

令和 7 年度第 1 回 南丹市地域創生会議 議事録

■日 時：令和 7 年 7 月 11 日（金）午前 9 時 30 分～12 時 00 分

■場 所：南丹市園部文化会館「アスエルそのべ」 3 階 大研修室

■出席者

委 員：青田委員、井関委員、今西委員、窪田委員、黒竹委員、廣戸委員、俣野委員、
山口委員 （欠席：坂下委員、森委員）

事務局：市長公室 國府公室長

市長公室企画財政課 高屋課長、片山課長補佐、足立企画係長、野々村主査、
堀木主事

■傍 聴：0 名

1. 開会（事務局）

■委員交代について報告

【行政分野枠】旧：井爪委員 → 新：井関委員

【金融分野枠】旧：大槻委員 → 新：坂下委員

【その他分野枠】旧：片山委員 → 新：山口委員

■欠席委員の報告および会議成立確認（設置条例による）

座長（あいさつ）：

昨年度は、第 3 期の人口ビジョンや戦略の策定ということで、5 回開催し、大変ご尽力いただき、感謝申し上げます。この会議では、前年度に行われた交付金事業について評価し、南丹市の地域創生の進捗をみながら今後のためにアイデアをいただきたく、また、南丹市でしている事業が他の地域でも役立つ形で言えるかご議論いただきたい。第 3 期の戦略期間だが、今回と次回会議では第 2 期の話を中心になるので、よろしくお願いします。

地域創生戦略については、第 1 期・第 2 期と 5 年ずつ 10 年間取り組んできた。先日の京都新聞でも、「地方創生 10 年」として記事を大きく取り上げられたが、国から交付金をもらって地方創生にどのような成果があったか、今後どうするのか、府内の自治体にアンケートをされた。限界があるといった回答が多く、その点は同感だが、一方で、例えば国に対して交付金を配っているだけでなく、もっと思い切った大きな手を打って欲しいという意見もあった。南丹市からも同様の回答をされたと聞いている。

私たちとしては交付金事業の評価を踏まえながら、これから地域をどうすればいいのか、或いは、国に期待するアイデア等もまとめて届けていけないといけない、との思いでいる。

地方創生に関わっていると、いろんな分野で人手不足等が進んでいるかと思う。人口減少で税収が減って財政が悪化してきたり、そうした問題にも対策していけないといけない。

今年度の会議においては、この地域の各界を代表される皆様に、お仕事や生活上で感じること、ご覧になっていること等のご意見を出していただき、地域の持続可能な発展につなげていけたらと思う。ぜひ、皆様からご発言を活発にいただければと思っているので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2. 報告

■物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業について事務局から説明

＜報告資料に基づき令和6年度に上記交付金を活用した事業について報告＞

■令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)について事務局から説明

＜報告資料に基づき令和6年度に上記交付金を活用した事業について報告＞

座長：

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金は大変ありがたいもので、着実に実施されているが、報道や情報がそれほど公表されておらず全国的なニュースや話題になってない面があると思う。もちろん総務省や内閣等の関係機関は、ホームページ等でプレスリリースはされており、一部の自治体では、それを使って、今ご報告いただいたようなことをホームページ等でPRしているが、市自身の発信方法や、ケーブルテレビのニュース等、しっかり発信していくことも大事かと思う。そうでなければ、お得な補助金があるから申請しないと損といった一部を切り取ったPRをされることもある。情報が届かなければ、国も市も何もやってないみたいな不平ばかりが広がる。ここでご報告いただけたのはとてもありがたいが、うまく発信するという着想も大事かと思う。

3. 議事

座長：

今年度の地域創生会議をどのように進めていくのか、事務局から説明願う。

■今年度の地域創生会議の進め方について事務局から説明

○今年度の会議スケジュール

【第1回】交付金対象事業の概要説明・質疑応答・意見交換、

評価確定に向けた評価シートの作成についてのお願い、

第2期南丹市地域創生戦略の総括(案)の説明・質疑応答・意見交換

【第2回】交付金対象事業評価確定、第2期南丹市地域創生戦略の5年間の評価

○議事録について…委員の皆様のご発言を要点をまとめた形に変更する

座長：

議事録については皆様に公表前にご確認いただく。個人名の記載はないので、周りの目を気にせず積極的にご発言いただきたい。

地方創生に関連する事業のうち、国の交付金事業について、指標にしているKPIやKGIの達成に

有効であったと思うか評価いただきたい。科学的に考えると、『そもそも「思う」ではなく科学的に研究して調査しないといけないのでは』という話になるが、各界からお集まりいただいた皆さまの見聞をクロスさせることによってその評価をするのが日本型の政策の評価のやり方として定着している。南丹市としては評価シートを作って一人一人からの評価とコメント等をいただきまとめていく丁寧なやり方をしてるので、ぜひ率直なご意見を言うていただけたらと思う。全体的に1事業が南丹地域を革命的に変えることはないが、地域創生に役立っているかということと、次に何をしないといけないのかというアイディアもコメントいただけたらと思う。このシートが評価の中心になっているという事をご承知おきたい。

なお、最終には皆さまの評価をまとめて、数が多い評価をこの会議体の意見としてまとめていく。少数意見も残して紹介するので、遠慮なく言うていただけたらと思う。先ほどから、皆さまには「各界を代表して」と言うているが、決して「地域や団体の意向を反映してそれに従って言うてくれ」というわけではない。ぜひ、この会の趣旨に従って持続可能な南丹市を作るための事業という観点からご評価をお願いしたい。

■「資料1：第2期南丹市地域創生戦略に係る KGI・KPI 推移」について事務局から説明

- ・資料の見方
- ・各項目ごとの傾向

■「資料2：令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）交付金事業評価調書」について事務局から説明

- ・資料の見方
- ・各事業について端的に説明（各 1 分程度）

座長：

評価いただく上で、もう少し知っておきたいことや、自分はこう評価するが他の委員はどう思われるか、といった投げかけ等でも結構なので積極的に質問を出していただきたい。この場で回答をいただけるものには回答を、そうでなければ次回までに教えていただける流れになる。

全体的な感想等は如何か。

A 委員：

各事業の個票は、交付先の国が示している調書等にならったものか。

事務局：

この調書自体は国に報告や提出している資料ではなく、会議独自で作成したもの。

A 委員：

(3)成果と今後の方向性の書きぶりが丁寧に書かれているところと、事業によっては、実施内容の概要のみで実績の数字等が示されていないところもある。その書きぶりの横串を入れる等は事務局でされているのか。

座長：

元々は、南丹市が指標業績測定で指標と目標値を掲げて事業単位で評価していたが、難しい側面もあった。指標が無理ならせめて事業の業務日誌だと思って具体的に書く、数字はなるべく挙げる、挙がっていなければなぜそれが挙がっていないのか確認しよう、という話をした経過がある。

10 年前に交付金事業の調書を作る際、KGI を KPI に落とし込み各事業が KPI とどう関係しているのか、という指標を試みたが作成が難しいとのことだった。そこに割く力よりは事業を提案したり実施したりという方に力を割きたいということで、こういう書式になったと思う。

A 委員：

なかなか成果等が数字に出にくい事業もあるというのは理解できる。先ほどおっしゃったように、これに労力を使っていれば逆効果になってしまうが、フォーマットのものを作成し、できるだけ数字を拾うことができれば、書きぶりのレベルが上がって、その説得性は上がると思う。

もうひとつ、今回の事業はほとんどが継続事業になるので、特に市民の方に公表する段階では、実施数や参加者数等の経年比較ができれば、施策に対する市民のニーズ等を示すことにも繋がるのではないかな。

座長：

事務事業評価として 30 年程度、自治体で取り組んできた。こういったシートに過年度からの表があつて数字が入っていたものもあるが、それ程見やすいものではないので、この書きぶりの中で数値が書かれているとよい。

A 委員：

すべて網羅的に数字を上げる必要はないと思うが、主要な指標になるような数字を比較するだけでも、その施策についての必要度や市民のニーズがわかってくるのではないかと感じる。

座長：

事務局の方でここまでのご発言で、何か受け止めやお返しとかいただけることがあれば頂戴したい。

事務局：

委員の仰るとおり、前年度との比較などがあると皆さんよりわかりやすいと思うので、そのあたりをできるだけブラッシュアップできるような形で検討していきたい。

座長：

新しく第3期に入ったので、横串を通してレベルアップが図られるようなご指導をぜひお願いしたい。第3期が始まっており、変えようがないことを承知の上で言うが、例えば、表を打ち込むときに数値が書いてなければAIが書くように促す、過去の実績を打ち込まないと通らないといったシート等が作れないか。技術を持っている大学に協力いただければできるかと思ったりもする。事務局で横串を通してご指導いただいて、納得の上で担当者に書いていただくというのも大事だし、今どきのAIデジタルを使って自然と書くように仕向けていくような着想もいいのではと思った。

A 委員：

京都府もかなり長い期間、いろいろと事業評価してきたが、はっきり言うと事業をする課にとっては手間のかかる仕事。その中でも評価の数字について、「どういったものが事業効果を示せる数字であるのか、それを実証できる数字であるか」考えるのは悩みの種ではあるが、やはり府民であり市民の方にわかってもらえる視点で取り組んでいかないといけないと思う。

座長：

一方で、施策・事業評価、他方で人事評価でそれぞれ打ち込んで、その打ち込む部分をAIアシスト等で優しく励ましてくれたり提案してくれるような仕組みをぜひ京都府でも作っていただければ。いろんな大学に相談したらできないかと思う。

B 委員：

資料の見方と、評価にあたっての根拠部分でわからないところがある。事業No.4-5の定住促進地域情報発信ツール整備事業では、交付金を佐々江地域に交付し相当程度効果があったと書かれているが、それは資料1の推移でどの項目をみればいいのか。この赤字の事業 No.4-1～6 の中に、この事業に対する評価一件のパーセンテージというのがどれにあたるのかわからない。評価するにあたりどこを見たらいいのかということをお願いしたい。

座長：

私からの説明で恐縮だが、こういった評価をする際には、「民間を見習ってKGIとKPIを設け、事業と紐付けることが望ましい」と国から言われている。しかし、実際そこまでクリアな紐づけは難しく、民間ほど実績がKPIとKGIに影響している部分を出せないのが、完全に「絵に描いた餅」ではないが、思ったように機能してない部分がある。

そのため、南丹市の第1期・第2期に係るKGI・KPIの設定と各事業との結びつきというのも、ややふわっとしている。具体的にKPIと結びついていない事業も多々あって、ご指摘のあった4-5は「集落の教科書」という特徴的な取り組みをされているわけだが、それがどのKPIに結びついてるのかと言えば、あまりはっきりしない。資料1の基本目標4(1)にあたるKPIのはずだが、それと直接繋がったものはないので、結局のところ1つ飛び越えてこのKGIと結びついてる、といったところ。

それでもまだふわっとしているので、南丹市に人を呼び込むということに役立っているのか、費用対効果的にはどうなのか、KGIやKPIにこだわらずに評価せざるをえないものも多々ある。我々がそれぞれ持っている数字や感覚から、少し違うのではとか、もっと行けるのではないかとといったことをご発言の根拠にと感じているが、事務局からは如何か。

事務局：

基本的な考えは座長に仰っていただいたとおり、どれに当てはまるというのが難しいので、基本的にはその考えでみていただきたい。また、ひとつの基準としては、調書の＜2＞に位置づけを示しているので、そこに当たるというような形で捉えていただきたい。

ただ、配布した資料の一部訂正をさせていただきたい。「定住促進地域情報発信ツール整備事業」について事業No.4-5と記載しているところ、＜2＞位置づけ欄の施策を(4-1)としているが、こちらが(2-1)の誤りで、空き家バンク登録件数等にアプローチをするところになるので、そちらに訂正させていただきたい。

⇒【会議後、事務局より修正】

○調書＜2＞欄の基本目標を「【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる」に修正。

○事業 No.は「4-5」

理由：当該事業は、基本目標2にも4にも関連する事業内容だが、第2期地域創生戦略の基本目標4(1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり の〈想定される主な事業・取り組み〉に位置付けられる事業を記載しているため、本交付金の評価調書では、基本目標4に位置付けた事業として取り扱うこととする。

事務局：

また、調書の「第2期戦略の振返り」の「成果・課題・苦労」欄で、「移住者を受け入れるための気運向上にもつながった」とあるが、この欄については過去5年間分の評価となっている。令和6年度は佐々江区の1件のみだが、令和5年度は日吉の世木地域を紹介する動画を作成されたり、過去5年間には定住促進地域情報発信ツール整備事業を活用して実施された事業がいくつかあるので、ご承知いただきたい。

座長：

KPIの結びつきで評価する仕組みだが、こだわりすぎると評価する項目が少し狭過ぎるため十分な評価になりにくい、という理解でしていただければと思う。

C 委員：

今回の事業評価シートについては令和6年度の事業だけを評価したらよいか。調書には5年間の評価されているものがあるので、これは参考にしつつ、令和6年度がどうであったかという評価を書けばよいのか。

座長：

基本的にそのとおり。ただ、アップダウンもあったり、最初勢いがよかったが落ちてきたりしたものもあるので、あまり単年度だけを見て断じすぎるのも…といった趣旨で先ほど事務局の発言があったかと思う。

C 委員：

承知した。これまでの実績を書いていたという認識でいいのか。

座長：

そのとおり。

事務局：

個票の＜3＞成果と今後の方向性の「実施結果(アウトプット)」欄については令和6年度の実績になっており、ここは5年間の結果ではない。「第2期戦略期間の振返り」欄は令和2～6年度までの振返りになっている。こういった区分をしているのでご承知いただきたい。

座長：

第3期の調書はもう作られているのか。例えば、第3期は今年が初年度だが、この第3期期間の振返りをみる項目があるのか。

事務局：

作成はこれからだが、今回のご意見も踏まえて改良を加えながらよりわかりやすくしたい。

座長：

第2期は5年間続けてきたため、今回の評価シートにはその全体を振返った項目が記載されている。

C 委員：

KGI・KPI の指標があるが一部取れなくなったものがあるとのこと。それぞれの評価指標は、全て同じ基準で数字の積み上げをされているのか。例えば、観光イベント来場者数は、同じイベントの数を数えているのか、その時々上がったものを対象にするのかによって、評価が変わってくる。

事務局：

観光イベントであれば基本的には同じものを追うようにしている。ホームページアクセス数等は、基準値にとった指標と同じものが取れなくなったので測定できなかった。

C 委員：

もう1点、交付金事業について、将来的には交付金がなくなっても継続をしていくのか、基本的には交付金等を取りながら継続していこうと思っておられるのか、こういった位置付けでこの交付金事業を活用されておられるのか。今回、事業を評価する際には、経済効果として交付金がなくても自走できるところまで至っているのか、を含めて評価すればいいのか。

座長：

自走はある程度理想、といった感覚で評価いただければよいと思う。1つ1つの事業が単年度で目指したことがある程度達成したのか、といったところを基本としながら議論しているのが実態である。

事業 No.1-4 の創業支援で、頑張っていたことは承知しているが、今回は定員 20 名のところ 14 名の参加であった。この結果はどう受けとめたらいいのか。単純に目標定員が埋まってないから頑張り不足なんだと言ってしまっているのか。

事務局：

担当課に確認し、次回までにお返しさせていただきたい。

座長：

JR に広告を出す事業として、近いものは 2-4 や東京圏に出している 2-8 の事業がある。500 万円使っていて、これの効果は如何か。「茅葺屋根やこの辺りの地域の姿を東京の方にみているだけで点で意味はある」としているが、例えば、この宣伝をみて訪れた観光客数やふるさと納税額等、宣伝していることの裏付けになるような数字があれば欲しい。

事務局：

実際にサイネージを見てどれだけの方が来られたか、データは取れてないので、効果を測定しにくい部分はある。ひとつの例としてだが、ふるさと納税をしていただいた方からのコメントをホームページで公表しており、その中に、南丹市出身の方が「東京でこの広告を見て懐かしかった」というコメントもいただいた。そういう方がいらっしゃるということは確認できた。

座長：

そういう人が1人いたら10人くらいはいるんじゃないかと思う。南丹の人が東京に行った時、電車の中で宣伝しているのを見たら勇気づけられる等あると思う。

D 委員：

観光に来られた方や移住された方に「何をきっかけにこちらに来られたか」といったアンケートを取っておられるところもある。数字の根拠をすべて出せとは言えないが、そういったものを取る努力はあってもいいのではないか。ファンを増やすという意味では、南丹市を知らない人でファンを増やしていくところに繋がればよい。

2点目は、転入・転出者数について、年に少し転出超過ということだが、基本的に学生が入っている数字だろう。学生に住んでいただくのはもちろん大事なことが、学生は流動的なので転入者・転出者数に学生数がどの程度含まれるかをわかりやすくしてもいいのではないか。

住みやすいと感じている市民の割合が伸びない理由として私自身が思うのは、夜の街が真っ暗であることがひとつの理由と思う。通学路でも、子どもが夜遅くに通るので「街灯を立てて欲しい」という子ども会の意見が出続けているが、そういったところに街灯がなかったり、10時以降は消えるというようなところもある。お金をかけられないという部分もあると思うが、駅が遠い近いということだけでなく、安心安全という意味の小さなことの積み重ねが、住みやすさに結びついていくのではと思う。また、防災についても、夏にイベントをしたときにアンケートをとったが、「防災の情報が欲しい」というのが2位3位であった。防災面は、なかなかこういう数値に出てきにくいのが、やはり大事であるし、安心安全というのがもう少し、こういう事業の中にうまく入っていけば住みやすさというものにもっと繋がっていくのではと感じた。単純にお金をケアするとか事業で子育てのケアをすることだけではなく、普段暮らしている自分たちが肌で感じている部分に、うまくお金がかけられたらいいのでは。

事務局：

PRは、JRだけでなくシティプロモーション等いろいろとしているので、総合的に見ていただいた結果、ふるさと納税の納税額が上がっているというもある。アンケートも取れる場所と取れない場所があるが、担当課が考えながらやっている。今後はそういったことを念頭に置きながら取り組む必要がある。

防犯面については、この交付金を使っていくのは難しいが他の補助金も使っている。そういった面でも、もっとPRをしていくというのは大事。

座長：

特定の場所だけ開発して夜でも明るくて安全でしかも防災も万全な環境を作れば、みんな住んでくれるのか。市域全体を綺麗にリニューアルするのは難しいが、コンパクトシティのように部分を限ってやるといったアイデアはある。

また、ふるさと納税でも申請した理由を回答していく仕組みがあるので「なぜ寄付をしたか」等の情報は取れる方法は様々ある。なるべくお金をかけずに報酬に見えるようなものを提供することで情報をいただく等の工夫ができれば。例えば、南丹ポイントとして貯めてもらい市役所に来たら何かもらえる等。地域通貨を導入している地域で、地域通貨を購入し、ついでに何かに答えたら何ポイントが入るといった、いろんな方法で情報を取ったりしているので、工夫できると思う。

C 委員：

参考までに、観光では年 3 回アンケートを取っているので情報提供させていただく。多くはインターネット、次はテレビ・ラジオ、あと口コミ、というのが多い。南丹市のイメージをある程度調べてきてから、その先で情報を得るようなケースが多い、というのが実際のところ。南丹市へ行く当日もしくは前日に情報を得ようと思われる方が多く、その理由としては、全体の 75% ぐらいが、京都・大阪・神戸あたりから訪れるため。高速道路で 1 時間から 1 時間半圏内から来られるというのがデータを取っていてある程度わかっている。観光と地域振興がうまくデータを共有しながら分析するのもいいと思う。

D 委員：

観光協会や旅館、そういうところでも情報はおそらく取られていると思う。何も役所だけでしないといけないということではなく情報の共有があればよい。

E 委員：

例えば間伐材事業に関して言うと、過去の実績等みても令和 6 年度に補助金をした結果、何がよくなったのかよくわからない。ずっと実施されてた補助金ではなく、令和 6 年度に実施したことが何か効果に繋がってるのかよくわからなかった。どう評価すればよいのか。

座長：

まずは地域の声として率直に評価いただければと思う。「専門家としてすごく詰めた情報を出して欲しい」というのではなく、直感的に評価いただけたらありがたいと思う。

この実施結果をみてどうだというのは私にもわからないが、少し検索していただいたり、昨年度に比べて減ったり増えたりしたが「これはなぜか」といったことを聞いていただいて、納得できることや納得できないことを書いていただければと思う。生活されていて持たれているご見聞の中からみていただきたい。

F 委員：

サブカルチャー等人材育成支援事業で、実施結果で南丹市も京都国際マンガ・アニメフェアに出展されて、学校も毎年複数出している。せっかくなのでこういうところで、南丹市や学校を相互的に PR ができるような何かがあればよい。

また、大学等連携推進事業で、本校の場合は専門的な学びになるので地域住民の方との交流をどうつなげていくか少し難しいところはあるが、学校の人間からすると、こういった事業で交付金が出されるというのは非常にありがたいということだと思う。

座長：

私も似たような立場で参加するので同感するところ。サブカルチャーはこういった名称で国に提出

しているのか。言葉尻を捉えて悪いが、実際支援しているようなコミックとかゲーム等は昔はサブだったかもしれないがメインカルチャーといってよい気もする。

事務局：

国に対しては、この事業名そのものがでているわけではなく、事業の中身として出している。

G 委員：

人口減少幅は過去最大、出生率、出生数は過去最低になって人口が減ってきている。その中で南丹市に人の流れを作っていこうという目的で交付金をいただきながら事業を展開しているが、ここを評価するというのは非常に難しい。今までであれば、全く評価がないというところにはなかなか印はつけられない、そんな思いで評価をさせてもらっている。いろいろと書いていただいているところを、参考にしながら評価に努めていきたいと思う。

座長：

それぞれこの評価をしていただくにあたって、お考えになっていること・お尋ねになりたいことを率直に言っていただけて、大変ありがたいところ。

改めて全体を見て、私も一参加者として意見を申し上げると、関係人口の獲得といった政策は広域振興局の方でされていたが、市としては第2期ではそれ程してなかったとリストを見て思うところ。前回会議で意見のあった外国人住民というのも、今では取り入れないと地域がまわらないわけであるが、そういう関係の政策もそんなにないとの印象。

また、大学の力を借りるような政策の事例として、おおい町では「総合計画や地方創生で具体的に何をやるのか」というビジネスプランを大学生に提案いただく、といったアイデアコンテストをしておられる。大阪とか京都の大学がたくさん応募して出場してるので、南丹市も一層好条件であるから、もっと外部の力をうまく借りるような政策もあってもいいのではないかな。AIシステムや草刈をしてくれるロボット開発等、大学と繋がって力を引っ張り出してきたりすることもできる。大学や企業の近くにある立地を生かしてそういうことをする部署もあっていいのでは、と思う。

これらを踏まえて評価をお願いしたいが、続いて、その具体的な作業手順について事務局の方から説明をお願いしたい。

■事業評価シートの作成について事務局から説明

- ・＜事業評価シート＞に基づき、記入方法、提出方法、提出期限(8月1日)の説明
- ・ご提出いただいた評価をとりまとめて第2回会議の資料として配布

座長：

評価シートは委員名を記載しない方が評価を書きやすい、という配慮で無記名とする予定だが、第2回の会議では「これは自分の意見だ」と言っても構わない。平たく言うと、みんな有効と評価しているが甘いのではないかと考えていただいたり、事前に出した意見を翻して全体として2だったものが3や4になるようなこともないことはない。そういった作業を次回に行いたい。

それでは、次の議題に入る。第2期の最終年ということで、総括的な見解をまとめる作業をしていただく。その現状の進行状況や案について、事務局の方から説明願う。

■「資料3-1、3-2:第2期南丹市地域創生戦略の総括(案)」について事務局から説明

＜資料3-1＞ ・各基本目標のKGIの実績・達成度から読み取れる事務局考察

＜資料3-2＞ ・各評価指標から読み取れる成果と課題

・今後の方向性

C 委員:

確認だが、転出者数の達成度が325%となっている。おそらくここだけ基準値との比較をされて、実数での比較ではないように思うが、この形で評価するということによいのか。単純に比較すれば目標とその実績値でどの程度改善されているかをみることになるかと思うが、異様に高いので気持ち悪いなと思った。

事務局:

いかに転出者が抑えられた数字なのか、をみている。計算方法としては、目標値と基準値との差分と、実績と基準値との差分とを比較してみている。目標値は、基準値に対して40人の転出を抑えるものだったが、実際は130人抑えられているので、そのパーセンテージを示した。

座長:

私も気持ち悪いと感じるところ。また、分析のところ、未婚の方が多いのは学生が多いからではないか。学校が多い京都市と同じパターンで、学生結婚を勧めるのかといった話になる。実際、学生ではない住民で結婚されてない方がいっぱいいるということであれば成り立つが、このままだと、それは単純に学生が多いからではないのか。そこを考えた上でこの部分を書くか書かないか考えた方がよい。東京と京都は学生の流入が多いというのは常に言っていることなので、南丹市も一緒だと思う。

全般的にA判定などが多いが、婚姻数や出生数の一番重要なところが、なかなか数字が出ておらず頑張らないといけない。

B 委員:

今回の評価にあたり、福祉分野では交付金を使用していないため評価をすることがないところ。そもそも福祉に関する交付金は福祉分野がすればよいので基本目標3が盛り上がらないことにも繋がっているかと思う。市外に向けての視点も大事だが、結婚のために転出をされる方もいらっしゃるし、「南丹市では子どもが育てにくい」「通勤に少し距離があるので亀岡市に移動した」という声もよくお聞きする。市内でいかに子育てをしていくのか、結婚したくなるまちであるところを、どう交付金と絡めていけるのか、という施策も次期につなげていける視点かと思う。

確かに、どう評価したらいいのかということも、私も同意するところではあるが、外に向けても内に向けてもこの交付金がいかに活用できるのかということをもたえていければよいと思った。

座長:

全体的な人口ビジョンや地域創生戦略の推進にあたっては、交付金以外の事業のことと統一的に考えるべきだと思っているが、総括案は交付金事業に関する話が中心になっている。そういう意味で、この案は割と交付金をもらっていたものを中心にまとめていることをわかるように書けば誤解は減るかと思う。

4. その他

■事務局からの連絡事項

- ・評価シート作成・提出(依頼): 8月1日締切
- ・議事録確認依頼
- ・次回日程 8月22日(金) 9時30分～

5. 閉会

事務局:

以上をもちまして、令和7年度第1回南丹市地域創生会議を終了いたします。ありがとうございました。